

科目名称：	教育概論	
担当者名：	吉岡 利恭	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>本授業は、幼児教育の理念を学ぶとともに、国内外の教育の歴史、教育制度の変遷や子どもの発達等に関する基礎的な内容を学修する。保育者は保護者や地域社会からも、幼児教育の専門家としてアドバイスや支援が求められることから、的確で幅広い視野を持った保育者として実践、活躍するための基礎力を身につけることを目的としている。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>「子どもとは何か」「教育・保育とは何か」という問いかけに対する考え方や日本・世界の幼児教育制度に関する知識など、保育者として必要とされる基礎・基本的な力を身につけている。</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)		30	50	20	100
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 中学校教諭	《経験年数1》 2年
	《内容2》 高等学校教諭	《経験年数2》 16年
	《内容3》 高等学校 校長・副校長・教頭	《経験年数3》 7年
	《内容4》	《経験年数4》

備考
<p>プレゼンテーションや課題には、知識・技能の修得や自己表現力の向上だけではなく、グループワークなどを通じて他者と協働する力を身につけることも重要な目標としている。</p>

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
保育観の広がり・具体性	子どもの特徴を踏まえ、保育者の役割を保護者・地域の人々との関係も視野に入れて、具体的に考察している。	子どもの特徴を踏まえ保育者像を具体的に考察しているが、保護者・地域の人々との関連が明確でない。	保育者像や保護者・地域の人々との関連をある程度考察しているが、こどもの特徴の踏まえ方が弱い。	子どもの特徴、保護者・地域の人々との関係、保育者像の具体性のいずれも考察が不十分である。
教育・保育思想の理解	二つの教育観を踏まえて、欧米・日本の教育・保育思想家の主張の特色を、よく理解している。	欧米・日本の教育・保育思想家の主張の特色をおおよそ理解しているが、二つの教育観との関連性が弱い。	欧米・日本の教育・保育思想家の主張の特色をある程度理解しているが、二つの教育観を踏まえていない。	欧米・日本の教育・保育思想家の主張の特色を理解していない。
教育制度の変遷に関する理解	日本の教育制度の変遷を時代背景とともによく理解しており、諸外国の教育制度の特色も把握している。	日本および諸外国の教育制度を正確に理解しているが、その社会背景との関連性に不十分などがある。	日本および諸外国の教育制度の違いを理解しているが、その変化の背景を理解していない。	日本および諸外国の教育制度の違いを理解していない。
プレゼンテーション力	発表資料の作成・発声が工夫されており、発表内容・主張がよく伝わる。	発表資料の作成はすぐれているが、発表内容・主張がよく伝わる発声力の工夫がほしい。	よくまとまっているが、発表資料に弱いところがあり、発表内容・主張が明確に伝わらない部分がある。	発表資料・発声が不十分で、発表内容・主張が伝わらない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 保育者の役割・こどもの特徴	提示した詩を参考に、「私の目指す保育者像」をテーマに作文を書いておく。(事後)	40分
第2回 私の目指す保育者像：ルーブリックで自己評価、グループワーク及びビデオ視聴	目指す保育者像を深めたレポートを作成しておく。	30分
第3回 教育とは何か①(環境と安全)	教科書「4つの教育理念」p14～20を事前に調べてくる。	30分
第4回 教育とは何か②(教育、養護、保育)	教科書「子どもとは何か」p21～27を事前に調べてくる。	30分
第5回 幼児教育を築いた人々(2つの歴史観)：グループワーク	教科書p30～55を参考に、担当の人物を各グループで発表できるようにまとめておく。	30分
第6回 欧米・日本の教育思想家①(ソクラテス、コメニウス、ロック、ルソー)：プレゼンテーション及び評価活動(ルーブリック)	各グループの発表要旨をメモし、ルーブリックを確認しておく。	30分
第7回 欧米・日本の教育思想家②(ペスタロッチ、フレーベル、オーエン)：プレゼンテーション及び評価活動	各グループの発表要旨をメモし、ルーブリックを確認しておく。	30分
第8回 欧米・日本の教育思想家③(デュイ、モンテッソーリ、和田実)：プレゼンテーション及び評価活動	各グループの発表要旨をメモし、ルーブリックを確認しておく。	30分
第9回 欧米・日本の教育思想家④(倉橋惣三、城戸幡太郎)：プレゼンテーション及び評価活動	各グループの発表要旨をメモしておく。各思想家の特色をまとめ、確認テストの準備をする。	40分
第10回 我が国の教育事情と保育の歴史①(明治期の幼児教育・保育)、教育思想家の小テスト	教科書「戦前の幼児教育・保育」p57～60を読み、明治期の特色をまとめておくこと。	30分
第11回 我が国の教育事情と保育の歴史②(大正・昭和前期の幼児教育・保育)	教科書「戦前の幼児教育・保育」p60～63をよみ、大正・昭和前期の特色をまとめておくこと。	30分
第12回 我が国の教育事情と保育の歴史③(戦後の幼児教育・保育)	教科書「戦後の幼児教育・保育」p64～74を読み、戦後の特色をまとめておくこと。	30分
第13回 我が国の教育事情と保育の歴史④(幼稚園と保育所をめぐる問題、地域との連携の意義)	教科書「日本の幼児教育・保育の制度」p128～136を読み、現在の課題を把握しておくこと。	30分
第14回 諸外国の教育事情と教育改革の動向	教科書諸外国の教育制度」p136～150を読み、担当の国の特色をまとめておくこと。	30分
第15回 こどもの発達の特徴と遊び(実習に向けて、保育者の関わり方のポイント)	教科書「子どもの発達の特徴と遊び」p171～198を読み、乳幼児のあそびの特徴を把握しておくこと。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前・事後学習としては、次回までの課題プリント及びレポート(作文)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
 プレゼンテーション(20%)、小テスト(30%)、授業への積極的関与(提出課題・ファイル作成など)(50%)

課題に対するフィードバック

1. 授業内プリントは評価し返却する。課題作文はルーブリックによる評価を行う。
2. 小テストは、採点した後、返却し解説する
3. プレゼンテーションに関しては、ルーブリックの評価を重視する。

教科書・参考書

テキスト
 「子どもの教育の原理」(古橋和夫 編著、萌文書林)
 教科書を参照する他に、参考書・参考資料等
 授業中に適宜資料を配付する。